

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和 7 年 6 月 19 日	
長野県知事	様
提出者	
住 所	長野県下伊那郡阿南町新野1710
氏 名	有限会社新野工務店 代表取締役 佐々木 康
電話番号 0260-24-2633	
廃棄物の適正な処理の確保に関する条例第55条第1項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	有限会社 新野工務店
事業場の所在地	長野県下伊那郡阿南町新野1710
計 画 期 間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	建設業
②事業の規模	元請完成工事高 230,000万
③従業員数	10名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	前年度（令和6年度）実績		別紙のとおり	
	産業廃棄物の種類			
	排 出 量		t	t
	(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】			
	別紙のとおり			
	産業廃棄物の種類			
	排 出 量		t	t
(今後実施する予定の取組)				
廃棄物の再生利用を考慮した設計に努める				

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき類及び木くずについては分別するとともに、他の廃棄物が混ざらないように保管している
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチックについても分別する。 分別を徹底するよう教育を行うようにする。

(第8面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(年度)実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t t
	(今後実施する予定の取組)	

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度(6年度)実績】 別紙のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t t
	再生利用業者への 処理委託量	t t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t t
	(これまでに実施した取組)	
	・再生利用可能なものは再生利用業者へ委託している。 ・委託基準に従って、産業廃棄物を委託できる業者を選定し、書面による契約を実施。 ・マニフェストにより最終処分の確認を徹底している	

(第5面)

②計画	【目標】		別紙のとおり	
	産業廃棄物の種類			
	全処理委託量	t		t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t		t
	再生利用業者への 処理委託量	t		t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t		t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t		t
	(今後実施する予定の取組)			
	・可能な限り優良認定処理業者から選定する。 ・電子マニフェストを導入している処理業者から選定する。 ・委託先の処理業者には年に1回以上現地確認を実施する			
※事務処理欄				

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が500トン以上1,000トン未満の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

1. 会社の概要

(1) 会社名

有限会社新野工務店

(2) 資本金

2,500万円

(3) 従業員数

10名

2. 当該事業場の管轄地域

南信地域

3. 元請完成工事高

第44期決算（令和5年8月1日～令和6年7月31日）完成工事高
232,792,030円

4. 事業内容（建設工事の種類及び請負実績）

第44期決算

工事種類	完成工事高
土木一式 工事	93,798 千円
とび土工 工事	70,552 千円
法面処理 工事	41,730 千円
管 工事	332 千円
舗装 工事	46,942 千円
水道施設 工事	6,420 千円
解体 工事	1,036 千円
合 計	260,810 千円

5. 工事等フローシート

別紙

6. 事業展望

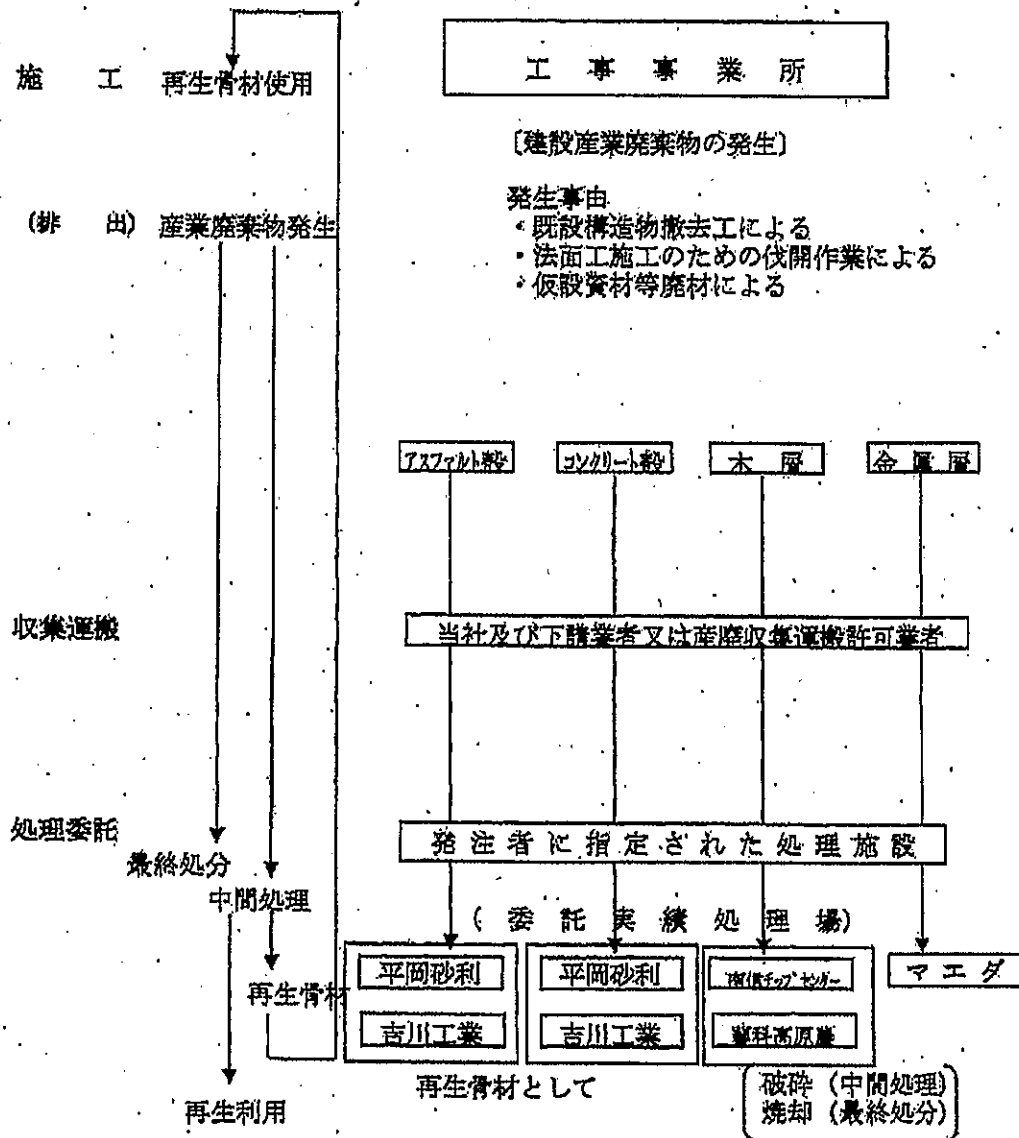
長野県・阿南町共、公共工事発注減少に伴い先行きは不安であるが前期決算の売上を目標に応札する。

7. 連絡先

担当者：有限会社新野工務店管理部

電話番号：0260-24-2633

〔建設工事産業廃棄物フローシート〕



①計画期間

令和7年4月1日～令和8年3月31日

②管理体制

統括責任者 取締役 専務

↓
管理責任者 管理部長

リサイクル場の確認・・排出された産業廃棄物が確実に
リサイクルされているかを1処理場に対し1回確認する。

↓
現場代理人 3名

各、現場で出た意見を安全・工程会議に持ち寄り検討する。

↓
作業員 5名

現場内での産業廃棄物について意見を現場代理人に報告する。

③産業廃棄物の抑制・分別・再利用に関する事項

弊社は、公共土木建設工事業が主体であり、受注工事の種類によって発生量は大きく変動し一概に発生数量の抑制を目標にすることはできない。19年度より産業廃棄物減量化・適正処理実践協定を県と締結し取り組みはじめたところであるので、産業廃棄物への意識の向上を第一の目標として取組んでいる。

分別・再利用に関して設計書のとおり適切に処理できているが今後何らかの提案ができるよう社内の意識を向上させていきたい。

別紙1

令和6年度産業廃棄物処理計画書（産業廃棄物の実績及び計画の量）

実績：前年度産業廃棄物排出量
計画：当年度産業廃棄物排出量の目標値

単位：t

事業年度	事業内容	自ら発生利用を 行った(行方)量		自ら処理量を 行った(行方)量		自ら処理量により減 量した(行方)量		自ら削減削減を 行った(行方)量		削減	
------	------	---------------------	--	--------------------	--	-----------------------	--	---------------------	--	--	--